OSSプロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの実態調査

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1042067　関口　元基

1．研究背景

現在，オープンソースソフトウェア（以下OSS）プロジェクトの開発者は毎日コードを書いたりレビュ－をしたり，バグレポートを書きバグをについて議論したり，ドキュメントやwikiを更新するなど，何百ものプロジェクトに貢献している[1]．しかし，こうした活動を通じて生まれたデータをアーカイブ化して分析することは難しい．私たちの身近な問題としてプロジェクトを行う上で共有サーバ上に保存したデータがほかのメンバによって上書きされてしまいデータが消えてしまうことがある．また，データファイルの更新時，ファイル名が同じであるファイルをメンバが操作してしまうと，更新日がばらつきどのファイルが最新なのかを把握できなくなってしまうリスクが発生してしまう．そのようなときに便利なものがGitHubである．GitHubの登場により，ソフトウェア開発の内情を調べることが容易になっている．たとえば，ソースコードの変更履歴を調べれば，その開発状況を調べればその開発過程を知ることが可能であるし，バグ追跡システムの履歴を検索すると，開発者同士のコミュニケーションの様子も知ることができる．これによりソフトウェア開発が盛んになり，OSSプロジェクトでの利用頻度は増えてきている[2]. OSSプロジェクトではどのようなプロジェクトマネジメントの手法が使われているのかを調査・研究し，マネジメント手法を提案することで管理体制の向上が期待できるのではないかと考えた．

2．研究目的

　GitHubなどのネット上で公開されているOSSを調査し，ソフトウェア開発の実態を明らかにする．GitHubからは，成果物「ソースコード」以外にも，ソフトウェア開発にかかわるさまざまな情報を引き出すことができるため，それらを収集して解析することによって，OSS開発における，プロジェクトマネジメントの実態や課題を明らかになることが期待できる．

3．研究方法

　本研究では，現在のOSSの実態を調査し，算出されたデータを収集し，それを統計あるいはデータマイニング的な手法で解析することによって，OSSプロジェクトではどのようなマネジメントの手法が行われているかを研究する．

4．成果物イメージ

GitHub上でのプロジェクトのデータを分析し，プロジェクトの管理体制の向上やマネジメント手法を提案する．

5．進捗状況

現在の進捗状況は，OSSプロジェクトの実態を調査，現状分析する段階に至っており，今後は実際に稼働しているプロジェクトの実証分析結果をもとに算出する次第である．

6．今後の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 日程 | 内容 |
| 2013年10月 | マネジメントの実態調査 |
| 2013年11月 | 実証分析結果を算出・統計 |
| 2013年12月 | 論文執筆 |

参考文献

[1] 経済産業省編.オープンソースソフトウエアの利用状況調査導入検討ガイドライン「オープンソースソフトウエアの現状と今後の課題についてhttp://www.meti.go.jp/kohosys/press/0004397/1/030815opensoft.pdf

[2] GitHub Social Coding : https://github.com/